



こんにちは 府会議員

さこ祐仁 です

2007年10月28日発行 No.48

日本共産党北地区委員会

432-3261

上京生活相談所813-2117

お年寄りにさらなる負担強いる「後期高齢者医療制度」は撤廃を！

来年市長選で中村和雄市長を誕生させ、福田内閣による国民負担増に審判を！

さらなるお年寄りいじめの「後期高齢者医療制度」は許さない！

75歳以上のかたを勝手に「後期高齢者」と名付けて、いまの保険の制度から切り離す、保険料は年金から天引き、医療も十分に受けられないという、お年寄りいじめの中身が「後期高齢者保険制度」です。

しかし、参議院選挙での国民の怒りの声が一時延期させる力になっていません。「後期高齢者医療制度」の「凍結」や「見直し」などをもとめる意見書や請願を採択した地方議会は、長野県・高知県・和歌山県・大阪市・名古屋・盛岡市をはじめ短期間に200を超えています。東京・千葉・埼玉・神奈川の一都三県は連名で「国庫負担の増額」など制度の見直しを政府に緊急要請するなど、お年寄りへのさらなる負担増を許さない声が全国からわき起こっています。今度は衆議院を早期

解散して、制度そのものの中止・撤回を実現させましょう。

来年市長選挙で中村和雄さんを市長に！

21日午後2時から京都市長選挙・中村和雄予定候補の事務所びらきがおこなわれました。各種団体と協議をし、「いま正義を・京都市政を刷新する会」(市政刷新の会)が発足し、いよいよ15週間後に迫った市長選挙本番へ、と決意を誓い合いました。同利権にゆがめられ、住民福祉をけずる一方で、大型開発をすすめる不正ないまのオール与党の京都市政を変えてほしいと、各界から訴え・決意がありました。中村和雄さんのお話を聞くと「この人なら京都市の顔になって、住民を一番に考える新しい政治ができる人だ」ところから実感できる素晴らしい候補者です。

現職市長は4選目に挑戦できません

した。市民に負担増を押し付け、不公正な市政を続けてきたことへの市民の怒りが追い込んだ結果でした。

伝統芸能の催しに参加して思うこと...

私の家の近所の般若林で行われていた、まちかど芸能を見に行きました。280年ほど前の江戸時代の京の芸商人(げいあきんど)の姿を現代に現したものでした。

続いて、鉾参通りの「京都・西陣第10回鉾参通工芸展」へ向かいました。地域のみなさんの尽力で、今年も盛大におこなわれました。

その後、西陣織会館の「西陣まつり」に、こくた恵二・衆院議員と北上府・市会議員と一緒に参加しました。源氏物語成立一千年を記念し、「源氏物語」関連の作品を一同に集め、展示している秀作展は圧巻でした。また、西陣織の「技」の工程もわかりやすく紹

介され、体験コーナーもありました。しかし、すばらしい技量を發揮する伝統工芸師といっても、職人の営業とくらしは大変な事態です。「若い人が仕事に就きたいと来ても、生活を思うとすぐに受け入れることがしんどい」と言っておられました。行政は何をすべきか、深く考えさせられます。



家の近所でおこなわれた、まちかど芸能での一コマ。



21日、事務所びらきで決意表明する中村和雄さん。

◎さこ駆け歩き

10月17日(木)「KBS政治を語る 労働商工常任委員会 テレビ常任委員会」の録画撮りがおこなわれました。テレビカメラが前に回ると大変緊張しました。どうしても先輩議員と違い、原稿を見ての話になり下向きになっていました。もっと国会議員のテレビ討論会を見ながら論戦に強くならなければと思いました。

テレビの録画撮りの後、京丹後市での府・市議会報告会に参加しました。地元からも地域要求が次々と出され、京都府と各市町村との連絡を常に取り合い、共通の認識にすることの大事さを学びました。

10月18日(木)京丹後市で10月12日(金)に2箇所での交通事故が起こり3人が死亡。以前からも危険性が指摘されており、現場の視察をおこないました。(府会議員団ホームページを参照してください)

阿蘇シーサイドパーク施設整備工事の現場や河川や府道を視察しました。河川は川幅が狭くいったん大雨が降れば氾濫する危険性や、山沿いの府道は拡幅されているところと狭小なところが入り乱れており、スピードの出しすぎで、交通事故になる危険性を感じました。さらに山々の木々が整備されずに荒れ放題になっているところも多々ありました。高速道路建設も大事だが生活道路の府道や通学路の確保も喫緊の課題だと感じました。

10月21日(日)地域のかたに日本共産党への入党を訴えました。ご主人も党员で、日頃から自分も共産党员という思いをもっていたとのこと。「主人から集会や世の中の動きなどの事も聞いていた。だから地域で署名を集めたり行事にも参加していた」とおっしゃるので、「それなら世の中を良くするために、私たちと一緒に命綱を引いてください。ご一緒に頑張りましょう！」訴えると、即座に入党の決意をいただきました。